

歳末放談会 令和元年、今、気になること

と き 令和元年 10 月 31 日 (木) 16:00 ~ 17:35

ところ 山口県医師会 5 階役員会議室

司会 定刻になりましたので、ただいまから恒例の歳末放談会を始めたいと思います。はじめに河村会長にご挨拶をお願いしたいと思います。

河村会長 本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。この会の開催日が来ると本当に年末の訪れを感じるような、今日この頃にととうなってしまうました。

この会の模様が医師会報に載るときには、一方的なことしか載らないかもしれませんが、やはり、いろいろな人の意見があって、このような会も成り立っているということで、それらの意見を、われわれはじかに聞くということでもいいと思いますので、よろしくをお願いします。

子どもの虐待について

司会 ありがとうございます。それではさっそく放談会に入らせていただきたいと思います。今回、事前に 3 つの話題を準備させていただきました。ちょっと重いテーマのものも多くて申しわけないのですが、普段、なかなか考えることもないテーマであったりもするかと思いますので、皆

さん、積極的な意見をいただければと思います。

では、まず 1 つ目に、子どもの虐待について。最近、子どもへの虐待に関するニュースを耳にすることが多くなりました。内容的にも辛いものが結構多くて、ここ数年で、子どもの虐待問題に対して、社会の人たちの関心は高くなっていると思うのですが、児童虐待の被害者というのは過去最高という結果になっています。

こういったことが起きてしまう原因や、防止していくためにどういった社会づくりをしていけばよいかなどについて話し合えたらと思います。

◆ 1991 年か 1992 年か忘れましたが医療圏の、こういった問題についての会議の委員になっていたときに、虐待の問題が出ていて、「虐待はゼロ」と言われたんです。でも、多分、そんなことはないですよ。だから、隠れていたものが出てきたということで、なかなか難しい問題があるのではないかと思います。いろいろな犯罪を見ていると、だいたい、皆さんもお分かりだと思いますが、父親の就労状況などが一つの突破口になるかなあというような気がしております。



◆ ステレオタイプな言い方になりますが報道なんかを見ていて、女性が前夫の連れ子を連れてきていて、再婚した後に再婚相手である旦那がその子をいじめるというパターンがすごく多いような気がします。離婚したときに子どもをどっちが取るかというときに日本の場合は女性のほうに、周りが好むと好まざるとにかかわらず行くパターンが多い。子どもをあまり育てたくないのに、実母ということを受けることになって、再婚したときに、いろいろな原因で虐待が始まるような感じのことがあると思います。

◆ 逆に奥さんが出て行って、父子家庭になったケースのほうが、もっと気の毒です。援助や理解も得にくい。経済的な問題と閉鎖的な環境がかなり影響している。

司会 閉鎖的な環境になると、どうしても外に見えないこととかが多くて、内々で、いろいろ問題が起きてしまうのかなあと。

◆ 人の目はすごい抑止力になります。目が届かないところでエスカレートしてしまいやすい。

◆ 今までは、日本の場合はそういうところを見てくれる人がいたけれども、これからはいないので、それこそ新聞配達や宅配便のドライバーの人が原動力とは言わないけれども地域を見守る一つの助力にはなるように思いますけれども。

◆ 虐待の一つの原因になるかもしれませんがけれども、僕たちが子どもの頃は、遊びばかりだったんですよ。年長の人もあるし、同級生もいる

し、下級生もいて、その人たちがみんなで一つのゲームをしたりとか、相撲を取ったりとか、いろいろなことをやった記憶があるんです。そういう団体の生活の中で、何かしら人に対する思いやりとか、感謝の念とか、あるいは競争心とか、そういうものが自然に体に付いてきたような気がするんです。

現代の子どもを見てみますと、生まれてから一人の個室をもらって、その中で勉強しているかと思うと、なんかゲームばかりに熱中しているような子どもさんが結構多いと聞きます。そうすると、頭でっかちで、周囲に適応するというか、そういうことができなくなってしまうんじゃないかと思えますね。

その代表的なのが、先日、話題になりました、小学校の教員 4 人による若い教師へのいじめ、それと、反省の色がない校長先生とか。あの人たちは、多分そういう環境で育ってきて、社会に適応する能力がないんじゃないですかね。一人で何もできないから、群れをつくって、さらに弱い人をいじめつけるというか、そういう感じが非常に強くするんです。

あの学校の先生なんか、本当にいじめっ子がそのまま大人になったような感じがするわけなんですよね。いつの世でも、子どもというのは、本当に大事な宝物なので、どうかこの子たちが本当にいい人生を送ってくれるようにアシストするということを考えていかなければならないと僕は思っています。

司会 今おっしゃったように、子どもも一人で遊ぶ、一人での時間が多いとか、外部とのつながりが希薄になっているがために、いろいろな弊害が

出席者

広報委員

津 永 長 門 石 田 健
川 野 豊 一 吉 川 功 一
渡 邊 恵 幸 岡 山 智 亮
岸 本 千 種

県医師会役員

会 長 河 村 康 明 専務理事 加 藤 智 栄
副 会 長 林 弘 人 常任理事 中 村 洋
副 会 長 今 村 孝 子 理 事 長 谷 川 奈 津 江

生じているのかなど。

虐待というところに戻ると、今年の 6 月ですかね、児童虐待防止法というのが改正されて、例えば、体罰を禁止するということが明文化されたところですが、街なかで手を出している親を見た場合に、そういった光景が全部虐待につながるのかどうかというところで、しつけと体罰の違いの線引きが難しかったりすると思うのですけれども。

今、民法でもそれなりのことをした子どもに対して、親は懲戒することができるという懲戒権というものがあり、その辺りの法律も、この児童虐待防止法の改正に伴って見直していくようです。ただ、見直していくにしても、体罰としつけの線引きをどう考えていったらいいのかなと思ったりもします。

◆ 今おっしゃったとおり、民法第 822 条ですね。これは「懲戒権」という規定ですが、その前に第 820 条に、「子の利益のために監護及び教育をする権利を有し、義務を負う」という条文があります。親が教育するというのは義務と考えられます。ここで問題なのは、児童虐待防止法や児童福祉法が改正されませんが、何が体罰にあたるのか規定がなく、その線引きに関して全く議論されずに、この法律が通ってしまったことではないでしょうか。

結愛ちゃんの事件もありましたように、これだけ子どもたちが亡くなっているということ自体、異常だと思います。フランスやドイツでは、すでに 60 年前に「懲戒権」を廃止しています。「懲戒権」の規定を盾に自己正当化を図る親もいます。意見のわかれる分野ではありますが、子どもたちの命に関わることであることを踏まえ、児童虐待防止法等との整合をはかる意味でも、議論を急ぐ必要があると考えます。

◆ 私はカナダに留学していたときに、文化の違いを目の当たりにしました。街で親が子どもを叩くような場面を見られたら、即通報されることが当たり前前の社会でした。しつくて凄く難しい問題なのでしょうが、そこは日本は未成熟なのかな

というのは、その経験を通じて僕も強く感じました。だから、日本人のコミュニティーでもみんな言っていましたけれども、絶対、外で子どもに手を上げたら通報されてもおかしくないぞって脅されていたぐらいです。

ネグレクトとなるとまた話は別ですけども、やはり一番多いのは身体的虐待です。これは手を上げるという文化そのものが影響しているのは間違いないかなど。実際、僕らなんて、小学校の頃、けつバットを平気でされていましたし、そういう環境で育っているの、子どもが悪いことをしたら、つい、叩いちゃうんですね。でもそれは、そういう環境で育ったからそうなるのだと思うので、今からは、しつけは原則、絶対に手をあげてはいけないという文化を少しずつでも育てないといけない。僕らの世代が一番難しいです。そういう世代で育って、子育てしているので、頑張りどころなのだと思いますけれども。だんだん、そういう文化が育てば、少なくとも身体的虐待というのはなくなっていくのかなという印象は持っています。時間はかかると思いますが。

司会 日本には、口で言ってきかないのであればというふうな考えがどうしてもあると思うので、先生がおっしゃるように、時間はかかるかもしれないけれども。

◆ 外来に、お子さんを連れてこられるお母さんの中には、手は出さないけど、しかる言葉がきついお母さんがおられます。心理的虐待になるぐらいに。法律も改正されていますけど、件数は減ってはいきませんよ。だから、実際どうするればいいのかという、先ほど言われたように、叩かれたらすぐ通報するなど、厳罰化をしばらくやらないといけないと思います。自動車のあおり運転みたいに、ある程度、集中的に取り締まっていかないと、なくならないと思います。

それと、厳罰化のことですが、虐待で亡くなった結愛ちゃんの父親の裁判を見ても、結局は、殺人罪とかじゃなくて、保護責任者遺棄致死という罪名で、量刑は 3 年以上 20 年以下の懲役です。本当なら、結愛ちゃんはまだ何十年も生きられて

いたかもしれないにもかかわらず、その生命を絶ったのに、十何年ぐらの量刑では緩いなあとと思います。法律も改正して厳しくしないと、これからも虐待死亡事件は無くならないかなと思いました。



◆ 僕の友達がかつて児童相談所に勤務していました、職員は通報を受けたらすぐ行くのだそうですが、昔は親から「しつけです」と言われたら、本当にすごすごと引き揚げてきたそうなんです。今後は、先生がおっしゃったように、法も改正されたし、いろいろな面で、いい方向には向かっていくんだらうと思いますが、ゆっくりと、しかもまた早急にやらざるを得ないのだらうと思いますね。今、先生のおっしゃったように、僕はもう、個人的な意見で極論過ぎますけれども、特に、世の中の宝である子ども殺しは、自分の死で償えと言いたくなるような感情を持っています。

◆ 法律や文化などの、家庭の外から攻めていくというのも大事ですし、家庭の密室化も問題です。でもやはり、母親の存在が大きい。

先ほど言われたように、母親は子どもを守るべきだと世の中が決めている。ほとんどの女性はやはり子どもはかわいいのかもしれませんが、新しい男に食べさせてもらう立場、経済的に依存していると、相手の連れ子を虐待するような下等な男にでも逆らえない。そんな弱者である女性を救える社会的な支援が必要です。若い人に、女性こそ自分の子どもを養えるぐらいの経済力が必要であると教育してほしいです。そして今困っている母親が助けの声を上げやすい環境が広まってほしいです。

もう 10 年近く前になりますが大阪のマンションで二人の幼児が餓死した事件。風俗店に勤めていたシングルマザーが、自宅の扉に粘着テープを張って子どもを閉じ込め放置し餓死させた。異臭がするという通報で駆け付けた警官が遺体を発見した事件。ずいぶんマスコミで報道されましたが、確か母親は懲役 30 年が確定しました。

「男と遊びまわって子どもを死なせたとんでもない母親」と非難の嵐でした。でもその前に、現在の日本で、20 代の、学歴も職歴もない実家のバックアップもない若い女性が子ども 2 人と生きていく困難さ、悲惨さから目を背けていたのではないか。

そういう意味で、子どもへの責任を母親に背負わせる風潮を変えるべきです。やっぱりもっと強力な、子どもを持った母親、あるいは親に対する経済を含めた社会的なバックアップが必要です。

たとえば、子どもを持つ女性が再婚して、相手の男が子どもを虐待するような例でも、女性が、前の夫、子どもの実父から相応の額を受け取ってれば、かなり状況は変わっていたのではないのでしょうか。そういう意味で、キャリアデザインを含めた若い女性への教育や養育費を含めたひとり親支援を早急に考える必要があると思います。

◆ 新聞に載っていましたがけれども、日本では最近、養育費が払われないことが多いそうで、年収が 1,000 万円を超えていても払わない人がいるそうです。外国では、行政が一部肩代わりして、養育費を払うほうから徴収するというシステムができていくところもあるようです。日本でも、給料から天引きするなどの方策が必要になるのではないか？離婚などの場合に、子どもを育てている経済的に弱い人を支援するために、養育費などがちゃんと支払われることが必要でしょう。

◆ 別れるにしても、一緒にいるにしても、やっぱり経済力があるといい。養育費も取る以前に、逆さに振っても何も出ない相手ではどうにもならない。

◆ 最近、明石市が養育費不払い解消のため、悪質なケースには反則金を科す方針を決めました。不払い率は本当に高く、特に男性が再婚すると払わなくなるそうです。防止策として、養育費を払い続けるという誓約がなければ再婚を許可しないぐらいは必要じゃないかと思います。やはり、女の人が子どもを育てるのにお金は大事ですよ。

◆ 今の家庭の生活を維持して、その上で前の家庭に払えばいいんじゃないかなかったですかね。

◆ 再婚して、扶養能力のある新しい父親の養子になったら、養育費は、基本的に払わなくても大丈夫みたいですね。

◆ そこ、おかしいでしょう。

◆ 養子縁組したということになると、扶養する人間が替わったということになるので、養父の収入に応じて負担をするみたいです。

◆ それだと、別れた女性が結婚したら父親の扶養義務が消滅ということですか。

◆ 養育費って子どもに対して払うもので、その女性に対して払うお金じゃないので。女性に対しては慰謝料で。

◆ でも、元妻が再婚したら、元夫の父親としての義務はなくなるみたいな感じじゃないですか。養育費は義務だけではなく、子どもへの愛情の現れでもあります。

◆ 経済的な問題って、やはり一朝一夕にいかないんで、取りあえずいろいろな事情があるなら、まずはレスキューだけでも急いでする施設としてあるのが児童養護施設とかですよ。認知症のおばあちゃんが施設に入ると一緒で、どうも児童養護施設に預けられると、なんか悪いイメージみたいな感じがありますけど、もっとそこを人的、組織的に拡充して完全に切り離すわけじゃなくて、学童の延長はショートステイみたいな、そう

いう感覚で、お母さんがもっと利用できるようなればいいんじゃないかなという気はしますけれども。

実際、そういう施設が、僕らも地域のどこにあるのかも知らないし、そういうところに預けている人を見たこともない。そういうレベルですから、そのへんの啓蒙とかをすると、取りあえずは救われる人は多いのかなという気はします。結構、ファミリーサポーターなどを利用されている人が多いみたいです。

◆ 児童相談所の人らが、目が行き届かなかったとか言っていていつも問題になっていますけれども、やはりそういう相談を受ける人が少ないんじゃないですかね。手一杯で目が届かなければ、やっぱり何例かのうちに、ひどい目に遭う子どもが出てきますよね。そのあたり、なかなか市町も予算がないのか、解決されませんよね。どうやって増やしたらいいのか、僕もよく分かりませんが。

◆ それはもう消費税を北欧型にして助けるしかないんじゃないかな。もう、そういうのに慣れきってしまっている人がざらにいるから。仕事も何にもしないというのはありますけど、生きる喜びや働く喜びを持つためには、20%がいいかどうか分かりませんが、一つの方法としてはあってもいいかなと思っていますけどね。

◆ 僕も普段の診療で、籍を入れず、事実上は一緒に生活していても、福祉手当をもらうために、籍を入れずに生活している人もいて、じゃあ、もらえるお金というのが、ちゃんと正しいところに届いているのかなと思ったりする部分もあるかなあとあります。それをどうしたらいいのか、ちょっと難しい問題ですけど。

◆ 家庭の閉鎖状態がよくないという意味では、やっぱり早期から、例えば保健師さんの訪問とか、家庭に行政が入っていくというのが一番だと思います

アメリカで児童虐待防止プログラムとして効果を上げている家庭訪問支援プログラム（HFA）で

は、もっとも効果的な方法は、新生児の親に介入していくことだとしています。未婚、低所得等支援を必要と要因を把握するため出産した病院でインタビューを行って、家庭訪問サービスの利用を呼び掛けるそうです。また 4～5 年前にベストセラーとなった『学力の経済学』はおもしろい本でした。子どもを納税者に育てるということを教育の成果とした場合、幼児の教育への投資が最も効果的だそうです。

◆ 先生のご指摘ですが、現在は、妊娠届が出たときから、ハイリスクの人は、特定妊婦といって妊娠中からチェックが入ります。妊娠届を出す時に、経済状況、支援の有無、精神疾患の既往歴など、アンケートを取って、ハイリスクの妊婦さんをピックアップして、保健師さんが、最初からフォローしてくれます。健診中でも、ちょっと危ないケースはすぐ保健センターに連絡して、「家庭訪問してくださいよ」と言ったら、直ちに動いてくれます。

虐待に関して言うと、最近、特に、高齢妊娠とか、40 歳過ぎて初めて産む人が増えてきて、産んだ後に理想と現実とのギャップに苦しんで、産後うつになるケースを多いと感じています。若い人は、友達もいっぱいいて、何かあったら、SNS とかで、すぐ助け合っているんですけど。産後うつで、虐待による死亡事件というのは、産んだ当日とか、1 か月以内が多いんですよ。実の母親が手に掛けるケースが多く、精神的疾患がある人は、特に注意しています。

現在は、産婦健診が始まり、産後 2 週間とか 4 週間健診時に、エジンバラの産後うつ質問票でチェックをしています。特に、緊急性がある場合は、精神科の先生に、直接電話で、「今から診てくれませんか」といってお願いすることも結構あります。

◆ さっきの若い子でも、仲間がいる子はいいいんです。それとおばちゃん連中が、かばってやりたい、助けてあげたい気持ちになる子はいいいけど、助けを得るのが下手な場合は、援助も得られず、ますます孤立してしまふ。

これは反省点ですけど、私たち、昔のおばちゃんやおばあちゃん連中に比べたら、面倒見が悪いと思います。なんか憎たらしい一言が返った瞬間に「もう知らん」と思いますもんね。

◆ 身体的虐待については、さっきおっしゃったとおりで、強権的にしなきゃいけないでしょうし、そういう文化をつくらなきゃいけない。つくることによって、少し解決の道があると思います。一方、これからかなり問題になってくるのが心理的虐待で、これは、表に出づらいつつも含めて、社会の構造から意外に増えていきそうです。

しかも心理的虐待は世代間での連鎖を起こしやすいので、慎重な対応が必要です。やはり心理的虐待に対して、子どもの視点を大切にしながら、精神科医も含めての対応が必須だと思います。子どもの未来のために、ぜひしっかり対応してほしいです。

昨年、成育基本法ができましたが、この法律では、虐待に関してはかなり焦点がおかれています。妊娠前から子どもが産まれて育つまでを保健師さんなどが寄り添っていくという日本版のネウボラが必要とされていますが、虐待の阻止に効果があるのではないのでしょうか。誰かが遠目ででも寄りそう仕組みはとても大事で、社会がひどくささくれ立った感じがある現在では、個人での介入はなかなか危険なので、行政による仕組みのなかで個に関わることが必要と感じます。

行政は法律にのっとってかなりのことができますが、懲戒権がある限り、現状では手が出せないこともありますので、やはり行政以外での共助が大切だと思います。ともあれ、「子どもたちに未来あれ」と心から思っています。

◆ 先日亡くなられた緒方貞子さんが述べられたことが、つい最近の新聞に載っていましたけれども。それには、彼ら、つまり難民の人には、生きてさえいれば、次のチャンスが与えられるということをお話しておられました。チャンスというのは、やっぱり、生きていくということだと思ふんですよ。だから、弱者、いわゆる子どもとか難民の人なんかも含めて、そういう人たちから生きてい

くチャンスを奪ってはいけないという気持ちを、その記事を見て感じたわけです。

◆ まさにこれこそが結論と思います。



司会 最初におっしゃったよう

に、ゼロにしないといけないような数字なのではないかと、先程の話も含めて思いました。全体としては、やはり周りとのつながりが大事で、そのためには、どうしてもお金がかかるようなこともあるけど、そういったところが改善されていけばいいのかなと思います。

自動車の運転について

司会 2つ目のテーマは、自動車運転を挙げさせてもらいました。ドライブレコーダーの普及率が近年高くなっていて、事故の瞬間の映像をニュースで見ることが最近は増えていると思います。交通死亡事故者数は、資料にもあるように過去最少となっているのですが、死亡事故自体の多くは、ルールさえ守っていたら起こる必要のなかったものであることが多くて、各々が安全運転を意識していれば、これもゼロにできるような数字なのかなと思います。

ルールを守らないという部分に関しては、若い人の事故が多いのかもしれないのですが、これから高齢化社会が進む中で、どうしても高齢者が事故に関わるケースも増えてくると思います。高齢者の事故では、どうしても事故自体が大きくなってしまいう傾向にあるようで、こうした中で私たちの仕事を考えると、高齢者に接することも多いかと思うので、私たち医療従事者にできることは何かないかということを含めて、自動車運転のことについて話ができたらと思いますが、何か意見のある先生はいらっしゃいますか。

◆ 興味深いデータがあります。立正大学のある教授の調査で、「事故を起こさない自信があるか」という問いに「ある」と答えた人の割合を年代別に見ると、年齢が高くなるほど「自信がある」と

答える割合が高くなるそうです。70代後半では、実に半数以上の方が「自信がある」と答えています。また、内閣府の調査によれば、80歳以上の4人に1人が車を運転しており、このうち6割近くは、ほぼ毎日運転しているそうです。運転を続ける理由は、地域の問題等さまざまであり、継続して運転しているほど自主返納への関心は薄いということは当然だと思われます。自主返納というルールそのものが問題で、個人に任せでは、もう限界に来ているのではないかというのが、このデータを見た私の考えです。

◆ もう高齢者には自動運転車に乗ってもらえないというふうに思っています。高齢者は自動運転車限定の免許しかとれないようにする。自動運転はレベルが1から5まであるんですけども、ぶつかりそうになったらブレーキをかけるとか、前の車に付いて走るとか、車線からはみ出さないというのがレベル1。例えば前の車に車線を変えながら付いていくとか、2つぐらいのことが一緒にできるのがレベル2ですが、高齢者はせめてレベル1の前の車とか人にぶつからないとか、車線をちゃんと守るとかいう機能が付いた車に乗ってもらわないと、高齢者特有の事故は絶対起きると思います。

免許証の自主返納の話もありましたけれども、昨日、旧阿東町のほうに行くことがあったのですが、そこでは80歳をすぎて、農業をしたりとか、まだコイを育てたりしている人がいます。あそこで車の運転ができなかったら、多分暮らせないですよ。

◆ その自動車は、いつ頃できるのですか。

- ◆ 今はレベル 2 までは出ています。
- ◆ そうなのですか。それじゃ、みんな切り替えることができるのですか。
- ◆ お金がかかりますけどね。ブレーキを自動でかけるとかというのはもう、だいたいどの車種にもオプションであると思います。
- ◆ つい数日前、ニュースで、自動運転の車限定の免許をつくらうみたいなのを首相が言っていましたよね。それは、つなぎにはなるのかもしれないですね。

僕、認知症を診ることが多いのですが、先ほどの先生が言われたとおりで、まずアルツハイマー型認知症の最大の特徴は、病識がないことです。だから、「私、大丈夫でしょうか」って病院に来る人で認知症の人なんて、まずいないですね。だから、家の人に連れてこられますが、本人は「どうもない」と取り繕って「私はいかに元気か」というアピールをするのが、その疾患の特徴なので、まさに認知症の人が病識がない「車は絶対運転できる」と主張するのは当然といえば当然で、それは非難はできないのでしょうか。そういう病気であるという認識は、やはり皆さん持っておかないといけないだろうなと。

都会のお金を持った有名人が「返納しました」とニュースに出っていますが、あれはあれで一定の効果があるでしょうけれども、地方のお年寄りから見たら、「そりゃ、おまえはそうだろう。都会に住んで、お金もあって」ですけど、現実には、山口では車がないと生きていけないですね。だから僕も、診断して必ず「認知症の人は運転しちゃいけない」って言うんですけど、ほんとに忍びないのは確かなんですね。AI とかになっていけば一番いいですけども。

とりあえず、つなぎの策としてはコミュニティタクシーやバスみたいなものを、もっともっと拡充させるべきだと思います。今、返納したら確かタクシーが 10% ぐらい割引になるんですが、多分そのくらいでは、なかなかタクシーだけで足を確保なんて経済的にも難しいので、免許

証を返納したらその人がフリーで乗れるパブリックなタクシーみたいな制度ができると理想なんだろうなと僕はいつも思います。でもそんな予算は現状どこにもないでしょうから、そうなると、やはり消費税が 20% になるのかもしれないですけど。

- ◆ 名案なのですけれども、泣きどころは、山口県も含めて今、タクシーの運転手さんがいないということです。だから、メカに頼るしかない時期に来ているのかなと思いますね。お金の問題以上に、人の問題のほうが大きくなっているような感じを受けます。

- ◆ 今、言われたように、運送業は、これからすごく減るんです。今でももう、タクシーの運転手さんというのは高齢者が多いんじゃないのかな。時々、タクシーを降りたくなることもある。

老人が車を利用する一番の目的は病院と買い物なんです。ですから、それができるようにするためには、もう 30 分に 1 本くらいは必ず出るようなコミュニティバスが一番いいんじゃないかなと思います。

- ◆ 阿東町の生雲東分というところは相当広い範囲ですが、タクシーが 1 台しかいないですよ。そこでタクシーうんぬんという話をしても、なかなか難しい。近所のおばさんに乗せて行ってもらったりとか、今まででもあったんですけど、Uber みたいな白タクとか、知らない人にでも乗せて貰うようなやり方をするしかないんじゃないかなと思います。

- ◆ でも渋谷とか大阪駅の前で乗ると、阿東町で乗るのでは、全然違いますよね。基準が一律すぎる。

- ◆ ですね。羽田空港なんかによく 3 ナンバーのでかい車を取り付けて、それに中国の人がたくさん乗ったりとかよくみます。ちょっとどうかなとも思うんですけど。田舎では事情がちょっと違いますよね。

◆ 自動運転は素敵ですけども、多分、そういう自動車設備の制限が付くと経済的理由で車を諦める高齢者が、かなりいると思います。高齢者が白内障手術を希望する大きな原因は運転免許更新です。私は 10 年前ぐらいに「まだ 80 やけえ、運転したい」と患者さんに言われて驚いたことがありました。しかし今や 80 歳で運転は普通ですよ。

時刻表を見る必要もない、バスや電車が数分おきに来る都会の人間が、「年寄りの運転、けしからん」って言っていますが、この辺りの歩道は、まず人が歩いてないです。おまけに、先程言われたように、おじいちゃんの運転免許があるから、在宅が成り立っている家庭って、普通に山ほどあります。そんな家庭でいきなり運転するなというのは難しいです。最初は「夜は運転しちゃいけんよ」と注意しますが、その次は、「子どもの登下校時間は運転しちゃいけんよ」って言うようになります。田舎では、もう道を人は歩いていないです。登下校の時間を避けた明るい時間、10 時から 3 時までの時間限定の運転免許なんかどうでしょうか。費用もかからないし、通院、買い物可能です。時間制限の運転免許はどうでしょうか。

◆ 周防大島で走っていたときに、僕が走っている同じ車線を、前から車が来て、「これは、どうよけたらいいんだろう」ということがありました。そのときは結局、自分が止まったら向こうも気が付いて止まってくれました。

あと阿東町で対抗車線を走っていた車が、100 メーターぐらい手前で、ひゅっと僕の車線に入って、木の枝から何か、もいでいるんですよ。

無謀な運転をするお年寄りには野放しにはしてはくれないと思います。だから、どうしても自動車の運転がどうしても必要な人に対しては、国が補助を出すなり何なりして、自動運転車を買って貰うしかないんじゃないですかね。

◆ 自動運転車もいいんですけど、信頼性がどれだけあるか。事故を起こしたら、自動運転車の会社じゃなくて、今のところは本人の責任でしょう。

◆ 今は本人の責任ですよ。ただ、自動運転車もすいぶん進化してきています。事故をゼロにすることは出来ないにしても、高齢者が運転する事故の確率を何十分の一かにすることはできると思います。

◆ 事故は、相手もあるから。こっちが止まっても、向こうがぶつかってきたら。

◆ 確率の問題ですね。

◆ それから、無人運転になってしまったら、誰が責任を取るかという話ですよ。

◆ そうですよ。

◆ 精度の信頼できる自動運転というのがなかなか、すぐじゃないと思うけど。

◆ さっき言われていたようにトラックの運転手とかがいなくて、今やろうとしているのは、隊列走行です。1 台のトラックが走ったら、そのあとを 5～6 台の、無人トラックが追い掛けていく。

◆ 貨物列車みたいに。

◆ それは高速道路ですけども、指定の場所に行って、そこまでは、何回も行ったり来たりして運ぶような方法を近々、やろうとしているみたいです。

◆ 実験をやっていましたね。あと、スピードが出ない、柔らかい車をつくって、それに乗る。自分の命が危ないと思ったら、飛ばさないとはいけません。

◆ エアバッグを外に向けて膨らませる車が以前、出ていたような。「ぶつかっても相手を殺さない車」みたいな感じで。

◆ フロントガラスのところに、ぽんと出るのが

ありますよね。

- ◆ ボルボかなんか、ありました。
- ◆ 今までは乗員を守るほうが主で、外に対しての安全装置が、あまりなかったから。
- ◆ 車に乗ると人格が変わる人、いっぱいいますよ。怖い、怖い。日頃の話が通じないことが、よくあります。
- ◆ さきほど高齢者ほど運転に自信があるというデータを言われていましたが、最近、ニュースで、その原因として、あの世代の人は苦勞して運転免許を取って、憧れの車を月賦で買って、車に対する思いが強いから、なかなか返納できないというのを聞きました。
自動運転に関しては、今の技術の進歩では、多分 10 年たてば、特に商用ですね、バスとかタクシーは、運転手がいなくてもできるようになると思います。
都道府県別の交通事故者でいくと、愛知県が一番多いですね。島根県が少ないんですよ。人口の比率もあるかもしれませんが。実際、島根県を走っていて、みんな運転がすごく丁寧なんですよ。高速道路でもあまり車が走っていないのに制限速度を守られて運転されると、もう少し早く走って欲しくないかなって思います。
あおり運転する人の治療で、アンダーコントロール・マネジメントが効果があると言われていきますよね。反省の意味を込めて、これから学んでいきたいと思います。
- ◆ 出雲は以前、交通事故の多い所でした。市内

の 9 号線は生活道路です。事故を減らすためには、バイパスを作る必要があります。それまでは夜の国道 9 号線は無料高速道路と言われ、長距離トラックが 90km や 100km で疾走し、大事故を起こしていました。時間がかかりましたがバイパスができてから事故が減っています。

- ◆ さっきの自動運転のことですけど、まず高速道路でやって、2020 年まで、つまり来年までには地域限定の無人運転をやるという話です。この辺でも運転手が乗っていないバスが走ったりするのかもしれないですね。
- ◆ その地域限定を、田舎の方からやってもらわないと。
- ◆ そうですよ。多分、田舎からすると思います。都会は怖いですからね。
- ◆ 田舎のあぜ道を、自動運転できるかという問題が。
- ◆ 普通の車を運転しなくても、トラクターが運転できないと困るという方も結構いらっしゃいますからね。トラクターも自動運転ですか。
- ◆ 大きなトラクターは、GPS 制御の自動運転でしょう。
- ◆ 大きなものは、あぜ道は通れませんよ。
- ◆ トラクターの自動運転は、かなり以前からあると思いますよ。勝手に稲を植えていってくれるとか。



- ◆ 「納屋から畑に持っていくのに、やっぱり免許がないと困る」って、おじいちゃんが訴えるんです。
- ◆ だから、土地を買えば解決です。私有地にすれば、免許なんて要らない。

- ◆ 普通免許は要るそうです。
- ◆ トラクターは結構、危ないんですよ。周りに被害はないですけど、あぜとか水路に落ちる死亡事故とか、僕、何人か診たことがあります。意外に危ない。
- ◆ トラクターは平たいところだけじゃなくて、傾いたところも走りますから。
- ◆ 私の周りにも、エンジン音をブイブイいわせる人が居ますが、そういう人たちにとっては、ちょっと寂しいでしょうね。「工事現場か！」みたいなエンジン音を出して喜んでいる人。
- ◆ 先生のところにもいるんですか。
- ◆ 本当に好きなんだ、車。
- ◆ 私も、もみじマークを貼る年代に入っているのですが、やはり視力が本当に落ちました。ヒヤツとすることもあるから、夜の運転はできるだけないという自衛手段を取っています。
それと、先程おっしゃいましたけれども、S 県では、決してのろのろ運転している人ばかりじゃありません。道が結構良くて車も少ないから、つい、走りやすいので、スピードを出される方がいらっしやると思うんですね。
それと、今まで印象に残っているお年寄りの方のお話が 2 つほどありまして、一つは、この人は、山口県でも本当に有名な人なんです。あるとき、うちに来られたときに、「今日は先生、前をとるところ走る車がおまして、いらいらしましてね、追い抜いてやりました」って言われるんです。それも相当なスピードなんですね。そういう先生もやっぱり、家族の反対に遭われまして、ついに免許を返納されました。
それともう一人は、僕がずっと診ていた、やっぱり 80 代後半に入るようなお年寄りの女性の方なんですけど、その方は、ちょっと認知症が少し入ってきていました。つい最近なんですけど、なにか免許の更新をするために来られまして、更新

期間が過ぎており、もう駄目だみたいな感じなんです。それで、それをなんとかできないでしょうか、僕のところに来られたんです。「それは、ちょっと無理でしょう」って、僕が言ったら、その女性の方は、懽然として帰っていかれて、それ以来、顔を見せてもらえないです。病院時代からずっと診ていた人なので、本当に長い間、付き合っていたんですけれども。やっぱり認知症って、結構いらっしやるんですね。

司会 免許を持っている人が、返納しろと言われても、なかなか納得されませんよね。調べてみると、他県では、高齢ドライバーを対象にした自動運転外来という専門外来がある病院もあるみたいですね。警察からの依頼がほとんどのようですが、ドライビングシミュレーター等を使った検査も含めて、認知機能や身体機能など総合的に診て、自己返納を促すらしいです。やはり、それだけ検査した上で言われると、納得される方も増えたということです。あとは、グレーゾーンの人に対してリハビリをして、なるべく安全に運転できるようにしていく仕組みもあるようです。そのような取組みも、医療従事者としてはできることなのかなと思ったりしました。

- ◆ 認知症に関して言えば、いろいろ法律も変わって、例えば脳卒中の麻痺の人は、今は公安委員会が判断すれば運転できるように、以前は一律駄目だったのが、運転できるようにはなっているのですが、認知症だけはやっぱり、診断された時点でアウトなんですね。やはり医者側も、なかなか患者さんに言いにくくて、アリセプトを出しているけど、運転して通院しているみたいな人が結構いて、それをもっと啓蒙しないといけないと自分自身は思っています。

まず、本人さんに言って分かってくれば、まだ、それは大したことないのですが。やはり必ず家族の人に話すというのが一番大事で、この前の池袋の事件でも、加害者は認知症でもないのに、あの事故を起こしたばかりに、家族も巻き込んで、もう人生台無しみたいな状態になって。あのような状況になってもおかしくありませんよとい

うのを本人というより家族の人に言って、ある程度の年になったら、空気を読んで、止めていただくような働きかけをしてもらうように、僕らが言わないといけないのかなど。これは医師法第 23 条というのがあって「医師は診察した本人に対して療養の方法等、必要な事項の説明をしなければならない」というのに引っかかるらしいんですね。「運転を止めなさい」というのを徹底して言うておかないと。

かといって、MCI、軽度認知障害ぐらいで認知症のお薬を出している場合も結構、見かけるんですけど、MCI なんて運転こそ許されるとはいえ、あれは保険医療でいくとそもそも抗認知症薬が適応外ということになるので何かあれば処方自体がアウトで何か問題が起こる可能性があるんですよ。ほんと、気軽に抗認知症薬を出して野放しにしているという現状が、かなり多いので、そこは、医者側としては変えていかないといけないだろうなど常々思っています。

皆さんも注意、まだあまり判例がないのですが、そういったことで事故を起こした場合、誰がどうなるか、保険会社も、払うか払わないかも、はっきりしていない。最悪、保険会社もお金を払わない、本人も重罪になるということもあり得るので、よく、お話をされたほうがいいのかなど、僕はいつも思っています。

司会 説得される内容を、カルテに結構、記載されているのですか。

◆ もちろんそれは「駄目だよ」というふうには書いています。さらに、その一歩先があって、通報の制度が今できているんですよ。言っても守らないと、警察に言いなさいと。ただ、それは通報する権利があるということであって義務ではないので、そこが難しいところなんですけれども、僕は、そこまではさすがにしたことはないですけれども、一応、守秘義務違反にも当たらないということなので、結構今、制度としては、がちがちに固まってきているので、医者としては少なくとも、そこに追いついていって、キャッチアップして、きちんと明確に判断して、カルテに記載

して、家族に言って、というところまではやっておかないと、認知症に関してはリスクは高いかなと思います。

◆ 認知症以外にも、目のほうでも、少し問題だったりするように思います。

◆ やはり実技検査をやるべきですよ。マニュアル車でシンクロなしのトランスミッション、パワステなしで。それできちんと運転できなければ、オートマチック車を運転させないようにするほうがいいと思いますが。

◆ それ、エイジハラスメントになりますよ。それにそんな実技試験だと私は通らないので反対です。

◆ 先ほど言われたシミュレーターを使ったり、AI を活用して認知症を検査・診断していかないとダメだと思います。医者は、患者さんとの付き合いがあるから、どうしても絶対に運転を止めなさいとは言えないでしょう。だから機械を使って、数値を示して、これだったら駄目ですって、感情を入れないようにして診断していかないと、自動運転の車が出てくるまでは今の状態が絶対に続くと思いますよ。

司会 免許の更新期間が気になるころではあります。あと日本では、免許の永久剥奪はないみたいですけど、国によっては、危険運転などをすると永久に免許を持ってない国もあるようです。

だから明らかに意識的に危険な運転をした人が、数年経てば免許が取れるというのも問題で、厳罰化が必要なのかなと思いました。

◆ 先日の全国医師会勤務医部会連絡協議会で、高齢者の医師の働き方について議論がありました。アルツハイマー型認知症の人は病識がないと言いますが、医師が認知症になった場合に、本人には自覚がない、周囲の人もなかなか言いづらい状況で、一体診療を誰が止めればいいのか？永久のライセンス、しかも厳格なチェックの

ないライセンスの医師に対して、今後、大事な課題だと改めて思いました。

オリンピック・パラリンピックについて

司会 ありがとうございます。ちょっと重いテーマが2つ続いたので、最後に少し、来年の東京オリンピック・パラリンピックのことについて、明るくなるかどうか分からないですけど、話をできたらなと思います。いよいよ来年の東京でのオリンピックですが、山口県として今回の東京オリンピックに関わりがある部分、もちろんホストタウンになっている市町村もあると思います。そういった中で、今回の東京オリンピックも含めて、今までのオリンピックに何か直接関わったことがあるような方がいらっしゃれば、話をお聞きしたいと思います。

◆ 中学3年のときに、東京オリンピックがありまして、学校から聖火ランナーの伴走の選手を10名くらい選ばなければいけないということで、先生は凄く苦勞するみたいです。あっちを選べばこっちが立たずで。それで比較的、順当に選ばれましたけれども。

来年は、どう走るか分からないけど、前回のときは、山陽道をずっと走っていったんですね。1.2キロぐらいだったかな。伴走して行きましたけれども。生まれてこのかた、日の丸を胸に付けて走ったのは、あのときが最後です。でも、いい思い出になりました。

僕は、あのときは、前年が山口国体だったんです。ですから、山口国体も応援に行って、それこそ、平成天皇が結婚直後でしたから、美智子さまに沿道で旗を振っていましたけれども。

マラソンの開催地については、僕は、どうしていいか分からないですけども、もう、今までに何百億円って、かかっているんじゃないかと思うので東京でやるべきだと思います。オリンピックで夜中に走るのにはIOCの考え方では、やはり違うんでしょうね。

◆ ドバイのマラソンを見ていたら、深夜から未明である暑さだったでしょう。7月終わりの東京は、あれに負けないと思います。やっぱりIOCがいけません。

◆ 前回のとき、オリンピックは10月10日だったんですよ。

◆ メジャースポーツのTV放送にぶつからないようにしている。

◆ そうそう、アメリカのね。

◆ IOCが金を儲けるためにやっているから。IOCにも事情があるんでしょうけど。

◆ 東京と札幌で、8月の平均気温が6度ぐらい違います。

◆ 夕方とか朝とか、全然違うよね。

◆ デイトナみたいに陸上競技場の中をぐるぐる何周もして42キロ走るとするのは、駄目なんですかね。

◆ それだと面白くないし、どこが先頭か分からない。

◆ 陸上競技場ぐらいの広さなら全体にエアコンをかけられそうな気がします。

◆ 競歩は、わりと限られたところで回るから、なんとか日陰をつくったりしてできるんじゃないかみたいなことを、今朝のテレビで言っていました。



たね。でもマラソンは、そういうわけにはいかない。

◆ 競歩は、何周りかするんですね。

◆ 競歩は、同じ所を何回も回ります。

◆ 平均気温で判断していますが、札幌でも暑いときは凄く暑いです。昔、体育の日は 10 月 10 日で、東京オリンピックの開会式の日でした。最近、熱中症の対策で、学校の運動会などは、4 月、5 月に実施するでしょう。気温のことをいうなら、最初から春か秋に開催すればいいのに、いまさら札幌に変更しろなんて駄目ですよ。もともとマラソンは、マラトンの戦いでギリシャがペルシャに勝利し、それを伝えるためにマラトンから約 40km 離れたアテナイまで走ったのが起源だそうです。勝ったという報告をした伝令の兵士は、力尽きて死んだそうです。

◆ 東京オリンピックの札幌の話ですが、IOC が決まってから東京都知事に言ったために都知事は怒っちゃったんですね。、道路が熱くなるから、それに対する対策は皆やっているんです。札幌はできているのか。テレビで不満を言っていたのは、禁煙をマラソンのためにしたと。東京は、走っている人が、札幌でたばこの煙を吸ったら大変だとか言っています。もう決まったって言われたら仕方ありませんよね。

あとは、お金の問題だけでしょう。先程も言っていたけれども、アメリカの視聴者が見る時間帯に合わせてマラソンをやれという話でしょう。アスリートファーストとか言ってるけど、変なときに走らされたら選手生命を縮めますからね。やはり最初から、開催日の検討をやっておかないといけないと思いますよ。テレビの放映権が一番収入の多いときに放映すると噂されています。

◆ 今年の秋を見ていたら、9 月、10 月にやっても、台風が来て大ごとになるかもしれませんが。

◆ どこでやっても、今ごろは熱波がありますか

らね。だから、本当に今の時期でいいのかという問題もあるし、地球温暖化が、そもそも問題だという話になるかもわからないし、費用を誰が負担するかという問題もあるでしょうし、これからどうするんですかね。難しいんじゃないですかね、いろんなことが。

◆ オリンピックを持続可能にするのに、どれだけの予算でやったら世界中でできるかという話をしないと、青天井でなんとかするという話にはならないと思います。そのへんも、話してもらわないと。

◆ 都知事が反対していますが、もう内々では決まっているんじゃないですかね。築地の魚市場の件でも、最終的には新しいところに決まりましたね。あれも、前もって決まっていたと思うんですね。だから今回も、札幌に持っていくのは決まっていたと思うんですね。

◆ 先生、医療関係者を代表して、55 年ぶりに走られたらどうですか。

◆ いえいえ。あのときと体重が 50kg ぐらい違います。

◆ このごろは、多くの人に走ってもらうため、聖火ランナーが走る距離は 200m だそうです。

◆ 走る人がお金出すんだよね。一般で選ぶ人以外は、なんか、お金出して走れる人もいないんじゃないですか。

◆ それが一つ、費用になるんでしょうね。

◆ 伴走者の中に、一人ぐらいは、ペースメーカーじゃないけど、AED を付けて走る医者がいてもいいですよね。

◆ AED を抱えて走るんですか。

◆ 思い出しましたが、中学校のときに、たかだ

か 1.2 キロを走るために、3 回か 4 回ぐらい、高校の 400 メートルのトラックを、何周も何周も走る練習をしました。今だったら、ばらばらに走るんだろうけど、そのときは、ちゃんと足並みをそろえてとか、やらされました。

◆ どれくらいのペースで走られたのですか。

◆ 僕らがついていける普通のペースです。今の僕らじゃないですよ。中学生の僕たちが普通に、20 人がついていけるペース。だから、そんなに早いわけじゃない。先頭の方は陸上の選手だったけど、僕らに合わせてくれたと思います。

◆ 聖火が消えたりしたら大変なんですよ。

◆ 種火があるんじゃないですか。

◆ でも、みんなが見ているところで、ぱっと消えたら、なんか、ああって。

◆ だから運ぶ途中で 3 つぐらいに分けているんじゃないかなと思います。

◆ きっとライターでつけたのもあると思いますよ。

◆ 知らないところでね。

◆ 東京オリンピックの聖火は、雨が降っても台風が来ても大丈夫なそうですね。

◆ 水の中で燃えるやつでしょう。

◆ サーチライトみたいなものですか。

◆ 酸素が出る。火をつけて、熱が上がったら。

◆ すごいですね。

◆ メーカーは絶対消えないって言ってました。

◆ せめてライターじゃなくて虫眼鏡でつけてほしいところです。

◆ 私はスポーツってあんまり思い入れはないんですけども。オリンピックのマラソンを札幌でやるのは、イメージとしては、よくないのでしょうか。個人的には選手の命を守るためにはそんなに悪い案じゃないのかなと思ったりはするんですけど。

◆ 最後は国立競技場に戻ってこないと。

◆ 仮にニューヨークでオリンピックがあって、ボストンを走っていても、分かんないっちゃ分かりませんからね。なんとなくオールジャパンでやるというイメージだったら、そんなに悪くないかなとは思いましたけどね。

◆ 選手からしたら、地元優位で、金メダルを取ろうと思って、ものすごい練習しているんですね。でも、札幌に行ったら、今までの練習が全然役に立たない。暑さ対策もなにもかも、すべて役に立たないだろうから、日本の選手は不満だろうと思いますよ。

◆ 札幌に行ったら、条件がよすぎて、日本人は絶対、メダル取れませんね。あと、心配なのが、オリンピックまで 1 年切っているのに、日本の、今までお家芸とか言われていた競技が、全然、成績が振るわないですよ。体操も駄目だし、柔道もあまり金メダルを取れてないし、水泳も 1 人、2 人はいいですけど。すごい伸び悩んでいるなあという感じで、予測通りに金メダルが取れるか心配なんですけど。

◆ きっと油断させているんですよ。

◆ でも、札幌でも東京でも、今年みたいに台風が当たる可能性はありますよね。そうしたら、ざんざん雨が降ったりしたら、交通機関とかどうするのだろう。

◆ あまり酷いと中止でしょう。

◆ 順延でしょうね。聞いたことないですよ、オリンピックでマラソンがなかったなんていうのは。



◆ 逆に、雨が降る日まで待ってたらよかったりして・・

◆ 涼しいからね。

◆ 雨で足が滑るし。だから前回は天気が良いからということで 10 月 10 日って決まっていたんですね。

◆ でも分からないですよ。10 月 10 日でも、台風が来るかもしれない。インドアのスポーツはまだいいけど、マラソンは大変。

◆ そもそも、オリンピックにお金と人手をかけすぎなのです。以前にもオリンピック分散説を提案して、皆様に無視されました。オリンピックをコマーシャルイズムとナショナルイズムから解放する画期的なアイデアだと思いませんか。4 年に 1 回だから競技を 4 分割して、1 年ごと各競技を実施、今年マラソン、来年はバレーボールとバスケットボールをどこかでやって、とか。

◆ 世界選手権みたいな。

◆ ワールドカップと一緒にするから。

◆ でも、スポーツ好きな人は、それでも毎年応援するでしょう。こんな重装備のオリンピックなんかするから、税金も、建築業の人材資材も、東京に流れて災害復興の足を引っ張るわけです。派手なことばかり、やりすぎるからですよ。もう少し地道なことに、ともすれば大衆に忘れられがちなどころにお金と人手をかけてほしいですね。4 分割が無理なら、2 分割して北半球と南半球ぐ

らいで行えばよいのではないのでしょうか。

◆ でも、ラグビーは、企画として成功した。

◆ やはりスポーツは勝たなきゃ駄目ですね。あれだけ盛り上がったのは、日本がベスト 8 まで来たからだと思います。

司会 オリンピックだと競技の数が多いので、聞いたことがあるのは、オリンピックに出たい選手も、他の競技の方と、その期間、接することができるというのが楽しみだっているという、贅沢な話かもしれないですけどね。ただ、平和の祭典と言いますが平和なのかっていうことですよ。ここまでたどり着くのに嫌な話がいっぱいありましたね。そう考えると、先生がおっしゃるように、考え直さないといけないのかもしれない。

◆ オリンピックなんか開催するのに反対意見というのは、経費もかかってという意見が多いですよ。

◆ 母子手当増やせって言いたい。

◆ みんながお金出してもいいって言うから？

◆ まあ、その分、盛り上がるから、いいんじゃないですか。たくさん金メダルが取れるといいですね。

◆ ヨーロッパは、サッカーが秋に盛り上がり、フットボールがアメリカで盛り上がり、それを避けて夏なら、もういっそ、春にすればいいと思うんですけど。春は世界的に何かあるんですかね。

- ◆ ヨーロッパではサッカーがもう大詰めに近づきますから、誰も見ないのでは？
- ◆ バスケットボールが 6 月ぐらいまであります。
- ◆ だいたい 5 月の連休からプレーオフが始まりますから。スーパーボウルは 2 月の初めでしょう。
- ◆ 全部詰まっていますね。
- ◆ みんなが避けている時期なんでしょう。ヨーロッパのスポーツは 6 月から 9 月がシーズンオフのことが多いのでは？その間やっているのは野球ぐらいですか。
- ◆ 気候的に向いていないからシーズンオフなのでしょうね。
- ◆ 野球がああ時期にやれるということは、運動の強度がピッチャー以外はそれほど高くないということですか。
- ◆ でも、来年また、この場でその話で盛り上がりそうですね。

- ◆ メダルの数を、みんなで予想しましょう。

- ◆ 東京オリンピックの反省といたら、小池百合子さんと呼ばないといけない。

司会 まだまだ、お話しいただきたいところですが、時間の関係がございますので、ここで閉会とさせていただきますと思います。本日は、大変貴重なお話をたくさんお聞かせいただき、本当にありがとうございました。閉会のご挨拶を、今村副会長、よろしくお願いいたします。

閉会挨拶

今村副会長 最初の 2 つのテーマでは、かなり深刻な気持ちになってしまいましたが、本音で話せてよかったと思います。詳細をどこまで掲載できるかわかりませんが、最初から削除覚悟で話すというの、なかなかいいものだなと思いました。本日はどうもありがとうございました。

司会 ありがとうございました。これをもちまして歳末放談会を終了いたします。

